

Ⅲ 調査結果の詳細

1 基本属性

(1) 性別

本調査における回答者の性別は、身体障害者では「男性」が51.8%、「女性」が47.1%である。知的障害者は、「男性」が61.3%、「女性」が36.7%である。精神障害者は、「男性」が48.4%、「女性」が50.0%である。難病患者は、「男性」が43.1%、「女性」が54.0%である。施設入所者は、「男性」が57.0%、「女性」が43.0%である。

(単位：%)

区分	n	男性	女性	無回答
身体障害者	558	51.8	47.1	1.1
知的障害者	248	61.3	36.7	2.0
精神障害者	434	48.4	50.0	1.6
難病患者	346	43.1	54.0	2.9
施設入所者	100	57.0	43.0	-

(2) 年齢

身体障害者の年齢は、60歳以上が45.5%を占めており、平均年齢は49.3歳である。知的障害者の年齢は、30歳代までが64.5%で、平均年齢は31.8歳である。精神障害者の年齢は、40～50歳代が38.9%で、平均年齢は46.3歳である。難病患者の年齢は、60歳以上が43.6%で、平均年齢は55.5歳である。施設入所者の年齢は、40～50歳代が51.0%で、平均年齢は51.0歳である。

(単位：%)

区分	n	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無回答	平均年齢
身体障害者	558	13.3	13.6	2.0	4.7	9.1	9.3	45.5	2.5	49.3歳
知的障害者	248	13.7	28.6	10.5	11.7	10.5	3.6	17.3	4.0	31.8歳
精神障害者	434	0.5	7.8	9.2	16.6	21.4	17.5	24.4	2.5	46.3歳
難病患者	346	-	0.6	5.5	11.3	15.0	19.9	43.6	4.0	55.5歳
施設入所者	100	-	-	8.0	8.0	27.0	24.0	27.0	6.0	51.0歳

また、年齢3区分別にみると、身体障害者では「0～17歳」が25.8%、「18～64歳」が33.3%、「65歳以上」が38.4%である。

知的障害者では、「0～17歳」が37.1%、「18～64歳」が43.1%、「65歳以上」が15.7%である。

精神障害者では、「0～17歳」が6.2%、「18～64歳」が70.5%、「65歳以上」が20.7%である。

難病患者では、「0～17歳」が0.6%、「18～64歳」が62.4%、「65歳以上」が32.9%である。

施設入所者では、「18～64歳」が81.0%、「65歳以上」が13.0%である。

(単位：%)

区分	n	0～17歳	18～64歳	65歳以上	無回答
身体障害者	558	25.8	33.3	38.4	2.5
知的障害者	248	37.1	43.1	15.7	4.0
精神障害者	434	6.2	70.5	20.7	2.5
難病患者	346	0.6	62.4	32.9	4.0
施設入所者	100	-	81.0	13.0	6.0

(3) 調査票の記入者

調査票の記入者は、身体障害者では「本人が自分一人で記入」が53.2%である。
 知的障害者では、「本人の意向を考えながら家族や介助者が記入」が63.7%である。
 精神障害者では、「本人が自分一人で記入」が70.7%である。
 難病患者では、「本人が自分一人で記入」が82.9%である。
 施設入所者では、「本人の意向を考えながら家族や職員が記入」が59.0%である。

(単位：%)

区 分	n	本人が自分一人で記入	本人に聞いて家族や介助者が代筆	本人の意向を考えながら家族や介助者が記入	無回答
身体障害者	558	53.2	16.7	28.1	2.0
知的障害者	248	18.1	15.7	63.7	2.4
精神障害者	434	70.7	11.3	16.8	1.2
難病患者	346	82.9	8.1	5.8	3.2
施設入所者	100	6.0	34.0	59.0	1.0

(4) 居住形態、施設入所年数（施設入所者のみ）

現在の居住形態は、身体障害者では「自分の持ち家（購入マンションも含む）」が最も多く38.2%、次いで「親など家族の持ち家（購入マンションも含む）」が23.8%である。
 知的障害者では、「親など家族の持ち家（購入マンションも含む）」が最も多く46.8%、次いで「アパート、賃貸マンション、借家」が20.6%である。
 精神障害者では、「親など家族の持ち家（購入マンションも含む）」が最も多く30.9%、次いで「アパート、賃貸マンション、借家」が30.4%で続いている。
 難病患者では、「自分の持ち家（購入マンションも含む）」が最も多く49.1%、次いで「アパート、賃貸マンション、借家」が22.5%である。

(単位：%)

区 分	n	自分の持ち家	親など家族の持ち家	公営住宅	アパート、賃貸マンション、借家	グループホーム、ケアホーム	社宅、会社の寮	福祉施設	病院に入院している	その他	無回答
身体障害者	558	38.2	23.8	10.9	20.3	—	2.0	2.2	0.7	0.7	1.3
知的障害者	248	9.3	46.8	4.0	20.6	2.8	2.8	8.9	0.8	1.6	2.4
精神障害者	434	22.8	30.9	10.1	30.4	1.6	1.4	0.2	0.2	1.6	0.7
難病患者	346	49.1	17.9	4.6	22.5	0.3	0.9	—	1.7	—	2.9

施設入所者の入所期間は、「10年以上」が最も多く63.0%、次いで「1年以上5年未満」が17.0%、「5年以上10年未満」が16.0%となっている。

(単位：%)

区 分	n	1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上	無回答
施設入所者	100	1.0	17.0	16.0	63.0	3.0

施設入所している施設の場所は、「東京都外」が最も多く54.0%、次いで「東京都内」が22.0%、「練馬区内」が15.0%となっている。

(単位：%)

区 分	n	練馬区内	23区内	東京都内	東京都外	無回答
施設入所者	100	15.0	8.0	22.0	54.0	1.0

(5) 同居者（複数回答）

同居者は、身体障害者では「父、母」が最も多く 37.1%、次いで「配偶者（夫または妻）」が 32.6% で続いている。なお、17.6%が一人暮らしである。

知的障害者では、「父、母」が 70.6%、「兄弟、姉妹」が 48.8%である。

精神障害者では、「父、母」が 39.2%、「配偶者（夫または妻）」が 25.1%である。なお、24.9%が一人暮らしである。

難病患者では、「配偶者（夫または妻）」が最も多く 60.1%、次いで「息子、娘（息子または娘の配偶者も含む）」が 34.7%となっている。

(単位：%)

区 分	n	自分一人 だけで暮 らしている	配偶者	息子、娘	父、母	祖父、 祖母	兄弟、 姉妹	その他	無回答
身体障害者	558	17.6	32.6	21.7	37.1	3.2	21.1	4.5	1.3
知的障害者	248	7.3	0.8	1.2	70.6	7.3	48.8	13.7	3.2
精神障害者	434	24.9	25.1	16.6	39.2	2.3	14.7	5.3	1.2
難病患者	346	13.3	60.1	34.7	19.4	2.3	6.4	2.6	2.9

(6) 収入源（複数回答）

収入源は、身体障害者では「年金・手当」が最も多く 50.5%、「就労による収入」が 20.1%である。

知的障害者では、「年金・手当」が最も多く 49.2%、次いで「家族のお金」が 46.0%で続いている。

精神障害者では、「年金・手当」が最も多く 40.8%、次いで「就労による収入」が 28.1%である。

難病患者では、「年金・手当」が最も多く 43.4%、次いで「就労による収入」が 41.0%で続いている。

施設入所者では、「年金・手当」が最も多く 88.0%である。

(単位：%)

区 分	n	就労による収入	年金・手当	生活保護費	家族などからの仕送り	その他	無回答
身体障害者	558	20.1	50.5	6.6	3.2	25.4	7.0
知的障害者	248	21.4	49.2	4.0	46.0	6.5	3.2
精神障害者	434	28.1	40.8	19.6	6.2	24.0	3.2
難病患者	346	41.0	43.4	0.3	2.9	17.1	6.4
施設入所者	100	5.0	88.0	4.0	7.0	5.0	3.0

(7) 障害の程度

① 障害の程度

身体障害者の障害の程度は、「1級」が35.1%、「2級」が19.9%、「3級」が15.2%、「4級」が15.8%、「5級」が5.0%、「6級」が6.3%である。施設入所者では、「1級」(35.6%)、「2級」(17.8%)が多い。

(単位：%)

区 分	n	重度			中度			軽度			無回答
		1 級	2 級	計	3 級	4 級	計	5 級	6 級	計	
身体障害者	558	35.1	19.9	55.0	15.2	15.8	31.0	5.0	6.3	11.3	2.7
施設入所者	45	35.6	17.8	53.3	6.7	6.7	13.3	6.7	4.4	11.1	22.2

知的障害者の障害の程度は、「1度」が2.8%、「2度」が27.8%、「3度」が26.2%、「4度」が37.9%である。施設入所者では、「2度」(54.4%)が多い。

(単位：%)

区 分	n	最重度・重度			中度	軽度	無回答
		1 度	2 度	計	3 度	4 度	
知的障害者	248	2.8	27.8	30.6	26.2	37.9	5.2
施設入所者	79	8.9	54.4	63.3	21.5	11.4	3.8

精神障害者(434人)のうち、精神障害者保健福祉手帳所持者(173人)の障害の程度は、「1級」が4.6%、「2級」が50.3%、「3級」が40.5%である。

(単位：%)

区 分	n	1 級	2 級	3 級	無回答
精神障害者	173	4.6	50.3	40.5	4.6

② 重複障害の状況

回答者の手帳の所持状況等により障害の重複状況をみると、身体障害者で18.3%、知的障害者で20.1%、精神障害者で18.6%、難病患者で1.2%、施設入所者で27.0%となっている。

(単位：%)

区 分	n	身体障害のみ	身体・知的の重複	身体・精神の重複	身体・知的・精神の重複	無回答
身体障害者	558	68.8	13.1	5.0	0.2	12.9

(単位：%)

区 分	n	知的障害のみ	知的・身体の重複	知的・精神の重複	無回答
知的障害者	248	65.7	16.1	4.0	14.1

(単位：%)

区 分	n	精神障害のみ		精神・身体 の重複	精神・知的 の重複	精神・身体 ・知的の重複	無回答
		手帳なし	手帳あり				
精神障害者	434	42.4	34.6	5.5	11.5	1.6	4.4

(単位：%)

区 分	n	手帳なし	手帳あり					無回答
			身体	知的	精神	身体・知的の重複	身体・精神の重複	
難病患者	346	71.1	22.5	1.4	0.3	0.6	0.6	3.5

(単位：%)

区 分	n	身体障害のみ	知的障害のみ	身体・知的の 重複	知的・精神の 重複	身体・知的 ・精神の重複	無回答
施設入所者	100	20.0	52.0	24.0	2.0	1.0	1.0

(8) 障害の種類等

① 身体障害者の障害の種類

身体障害者手帳の1番目に記載された障害の種類は、「肢体不自由（上肢、下肢等）」が最も多く24.7%、「内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝機能、免疫の機能の障害）」（24.4%）もほぼ同じ割合を占めている。次いで「聴覚障害」が16.5%、「視覚障害」が15.9%と続いている。施設入所者では、「肢体不自由（上肢、下肢等）」（37.8%）が多い。

(単位：%)

区分	n	視覚障害	聴覚障害	平衡機能障害	音声・言語・そしやく機能の障害	肢体不自由(上肢、下肢等)	肢体不自由(体幹)	内部障害	その他	無回答
身体障害者	558	15.9	16.5	0.4	3.2	24.7	8.6	24.4	2.5	3.8
施設入所者	45	8.9	4.4	—	—	37.8	20.0	11.1	11.1	6.7

身体障害者手帳の2番目に記載された障害の種類は、「肢体不自由（体幹）」が最も多く35.2%、次いで「内部障害」が23.8%と続いている。

(単位：%)

区分	n	視覚障害	聴覚障害	平衡機能障害	音声・言語・そしやく機能の障害	肢体不自由(上肢、下肢等)	肢体不自由(体幹)	内部障害	その他	無回答
身体障害者	105	3.8	7.6	1.9	6.7	12.4	35.2	23.8	8.6	—
施設入所者	10	10.0	—	—	10.0	30.0	30.0	10.0	10.0	—

② 精神障害者の診断名（複数回答）

精神障害者の診断名は、「うつ病」が最も多く34.3%、次いで「統合失調症」が22.4%、「発達障害」が14.3%、「躁うつ病」が8.5%、「高機能自閉症」が5.8%と続いている。

(単位：%)

n	統合失調症	うつ病	躁うつ病	気分障害	双極性障害	アルコール依存症	薬物依存	認知症
	434	22.4	34.3	8.5	4.6	2.8	3.2	0.5
n	高次脳機能障害	発達障害	高機能自閉症	77ヘルパー	摂食障害	その他	無回答	
	434	4.8	14.3	5.8	5.5	1.8	24.0	4.6

※精神障害者の分類

この報告書において、各設問のクロス集計を行う際に、疾患別により傾向を比較する場合には上記の表の診断名を4つのカテゴリーに分類している。

統合失調症は「統合失調症」、うつ病、躁うつ病、気分障害、双極性障害は「うつ病・躁うつ病」、発達障害、高機能自閉症、アスペルガーは「発達障害」、それ以外の診断名を「その他」のカテゴリーに分類する。

③ 難病患者の疾患名

難病患者が罹患している疾患は、「パーキンソン病関連疾患」(8.7%)、「潰瘍性大腸炎」(7.5%)、「全身性エリテマトーデス」(5.8%)、「間脳下垂体機能障害」(4.0%)、「脊髄小脳変性症」(3.8%)、「特発性血小板減少性紫斑病」(3.5%)、「後縦靭帯骨化症」(3.5%)、「クローン病」(3.2%)、「特発性大腿骨頭壊死症」(3.2%)が多い。

(n=346、単位：%)

◆神経系 ¹								
パーキンソン病関連疾患	脊髄小脳変性症	重症筋無力症	多発性硬化症	モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	アミロイドーシス(原発性アミロイド症)	筋萎縮性側索硬化症	ライソゾーム病(ファブリー病含む)	球脊髄性筋萎縮症
8.7	3.8	2.3	2.0	2.0	1.2	0.9	0.9	0.9
スモン	多系統萎縮症	神経線維腫症(I型/II型)	副腎白質ジストロフィー	脊髄性筋萎縮症	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	進行性筋ジストロフィー	遺伝性(本態性)ニューロパチー	先天性ミオパチー
0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
亜急性硬化性全脳炎	ミトコンドリア病	脊髄空洞症	ミオトニー症候群					
0.3	0.3	0.3	0.3					

◆膠原病系 ²								
潰瘍性大腸炎	全身性エリテマトーデス	クローン病	強皮症	ビュルガー病	ベーチェット病	結節性動脈周囲炎	混合性結合組織病	シェーグレン症候群
7.5	5.8	3.2	2.3	1.7	1.4	1.4	1.4	1.4
サルコイドーシス	皮膚筋炎・多発性筋炎	高安病(大動脈炎症候群)	悪性関節リウマチ	ウェゲナー肉芽腫症	アレルギー性肉芽腫性血管炎	成人スティル病		
1.2	1.2	1.2	1.2	0.9	0.6	0.3		

◆その他								
間脳下垂体機能障害	特発性血小板減少性紫斑病	後縦靭帯骨化症	特発性大腿骨頭壊死症	原発性胆汁性肝硬変	再生不良性貧血	特発性間質性肺炎	ネフローゼ症候群	天疱瘡
4.0	3.5	3.5	3.2	2.9	2.3	1.7	1.7	1.4
特発性拡張型(うっ血型)心筋症	網膜色素変性症	肺動脈性肺高血圧症	慢性血栓性肺高血圧症	広範脊柱管狭窄症	膿疱性乾癬	肥大型心筋症	拘束型心筋症	母斑症
1.4	1.4	1.4	1.4	1.2	0.9	0.9	0.9	0.9
多発性嚢胞腎	自己免疫性肝炎	黄色靭帯骨化症	原発性免疫不全症候群	バッド・キアリ症候群	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	リンパ脈管筋腫症(LAM)	ウィルソン病	特発性門脈圧亢進症
0.9	0.9	0.6	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
原発性硬化性胆管炎	肝内結石症	びまん性汎細気管支炎	遺伝性QT延長症候群	網膜脈絡膜萎縮症				
0.3	0.3	0.3	0.3	0.3				

(注)「劇症肝炎」「ハンチントン病」「表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)」「重症急性膵炎」「プリオン病」「重症多形滲出性紅斑(急性期)」「悪性高血圧」「骨髄線維症」「特発性好酸球増多症候群」「強直性脊椎炎」は、回答者が皆無であったことから表記していない。

疾病系統別に整理すると、神経系が28.9%、膠原病系が32.1%、その他が35.5%となっている。

(単位：%)

n	神経系	膠原病系	その他	無回答
346	28.9	32.1	35.5	3.5

¹ 神経系は、脳を中心とした神経細胞が変化した結果起こる疾患群の総称。

² 膠原病系は、全身の複数の臓器に炎症が起こり、臓器の機能障害をもたらす疾患群の総称。

(9) 手帳を取得した年齢、精神疾患・難病の発症年齢等

身体障害者手帳を取得した年齢は、「10歳未満」が最も多く31.7%、次いで「60歳以上」が24.4%と続いている。施設入所者では、「10歳未満」「10歳代」「20歳代」が多く、ともに17.8%となっている。

愛の手帳を取得した年齢は、「10歳未満」が最も多く47.6%、次いで「10歳代」が25.4%となっている。施設入所者では、「10歳代」が最も多く22.8%、次いで「20歳代」が17.7%で続いている。

(単位：%)

区 分	n	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無回答
身体障害者	558	31.7	4.8	4.5	6.5	10.0	9.7	24.4	8.4
知的障害者	248	47.6	25.4	6.5	6.0	1.6	2.0	1.6	9.3
施設入所者									
身体障害者手帳	45	17.8	17.8	17.8	4.4	6.7	6.7	4.4	24.4
愛の手帳	79	7.6	22.8	17.7	12.7	3.8	—	—	35.4

精神疾患の発症年齢は、「20歳代」が最も多く19.4%、次いで「10歳代」が18.4%となっている。

(単位：%)

区 分	n	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無回答
精神疾患の発症年齢	434	12.2	18.4	19.4	17.7	9.2	7.8	7.8	7.4

難病の発症年齢は、「60歳以上」が最も多く22.0%、次いで「40歳代」が20.5%、「50歳代」が17.1%で続いている。平均年齢は42.5歳である。

また、医療費助成の申請年齢も、「60歳以上」が最も多く26.3%で、平均年齢は46.3歳である。

(単位：%)

区 分	n	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無回答
難病の発症年齢	346	6.1	4.9	12.7	15.0	20.5	17.1	22.0	7.8
医療費助成の申請年齢	346	1.2	4.3	11.8	13.6	19.1	15.9	26.3	11.0

(10) 障害程度区分認定の状況

障害程度区分の認定を受けたことが「ある」と回答した人は、身体障害者が14.5%、知的障害者が25.8%、精神障害者が11.5%、難病患者が7.8%となっている。

(単位：%)

区 分	n	ない	ある	無回答
身体障害者	558	71.0	14.5	14.5
知的障害者	248	54.8	25.8	19.4
精神障害者	434	73.5	11.5	15.0
難病患者	346	85.3	7.8	6.9

障害程度区分の認定を受けたことが「ある」と回答した人の障害程度区分は、身体障害者、知的障害者では「区分3」が最も多くそれぞれ17.3%、26.6%となっており、精神障害者では「区分2」(30.0%)、難病患者では「区分4」(18.5%)、施設入所者では「区分6」(36.0%)が最も多い。

(単位：%)

区 分	n	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	無回答
身体障害者	81	16.0	13.6	17.3	7.4	7.4	12.3	25.9
知的障害者	64	9.4	15.6	26.6	14.1	7.8	18.8	7.8
精神障害者	50	4.0	30.0	26.0	6.0	—	2.0	32.0
難病患者	27	11.1	3.7	7.4	18.5	11.1	3.7	44.4
施設入所者	100	1.0	—	5.0	20.0	32.0	36.0	6.0

(11) 発達障害、高次脳機能障害、難病等の診断状況（複数回答）

「発達障害」と診断されたことがある人は、知的障害者で34.3%である。

「高次脳機能障害」と診断されたことがある人は、施設入所者で4.0%である。

「難病」と診断されたことがある人は、身体障害者で12.7%である。

(単位：%)

区 分	n	発達障害	高次脳機能障害	難 病	特にない	無回答
身体障害者	558	6.1	2.5	12.7	67.6	11.6
知的障害者	248	34.3	2.0	4.8	43.1	16.9
精神障害者	434	14.3	4.8			4.6
施設入所者	100	15.0	4.0	2.0	48.0	31.0

※ 精神障害者の「発達障害」、「高次脳機能障害」、「無回答」の数は12ページの「精神障害者の診断名」の内訳の数を再掲している。